

コムラサキ

有明森林作業で昼の弁当を食べている周りをコムラサキが盛んに飛び交っていました。2~3本のヤナギが駐車している車に日陰をくれているのです。食草であるそのヤナギの樹冠が標的なのですが、しばしば2頭がもつれあったり、勢いあまって大回りしたりで、憩っているわれわれの周りにまで逸飛してくれるのでした。飛び疲れて一服しに来たのでしょう、アプローチ車道の湿り気に吸水している場面をわがデジカメでゲットしました。画像には2014年7月14日13時20分と記録されました。



コムラサキは美しい蝶です。ネットの画像で特にムラサキが美しく輝く美形を選びましたのでご覧下さい。国蝶のオオムラサキに対比してそれに劣らず美しい紫加減で、それより小型なのでコムラサキと命名されたものと思われます。タテハチョウたちは俊敏な飛び方をしますので、一見茶系統のキタテハとかエルタテハかと見えますが、澄川でもこの時節

に基地まわりのヤナギに寄ってくるのでお馴染みなのですが、狙っていてもカメラで撮影するのは難儀なのです。

終齢幼虫はナメクジ形が特徴です。オオムラサキやゴマダラチョウもイモムシ時には似たような角がありますので、近縁であることが理解できます。蛹も美しい翡翠色をしています。

食草はヤナギ類ばかりでなく、ドロノキ、ヤマナラシ、ポプラも食べるようなので、澄川の基地まわりは食草だらけなのです。この時期に澄川の食卓頭上を飛ぶ茶系統の蝶はコムラサキだと判定してもよろしいのであります。



分布は広く、日本全土の他に亜種だとされますが、ヤナギ類、ポプラ類が生えている地域が分布域になりますから、北半球の温帯域に広く分布しているようです。

ネットでコムラサキを検索しますと、同名の植物が出てきます。美しい紫色の実をつける草本ですが、ムラサキシキブとの混同がひどいのです。近縁の植物なので似ているのは当然なのですが、区別はできます。栽培ブドウの房のように実がびっしりと集まっているのがコムラサキでムラサキシキブはヤマブドウのように実がすこし離れたりして不規則なのです。ネットの画像でムラサ



左：コムラサキ 右：ムラサキシキブ

キシキブを検索しますと、ほとんどがコムラサキと判定せざるをえない状態でした。これら2種とも北海道にも野生種が分布している筈ですから、今後の活動地での出会いを期待いたしましょう。